

(別紙1)

イベント活動実績報告書

団体名	AKO23	活動名	AKO23
-----	-------	-----	-------

1 活動の実施内容

① 実施場所（地域） 赤穂義士祭、赤穂東中学校、赤穂西中学校	② 実施期間 自 2025年 6月 11日 至 2025年 12月 14日
③ 実施体制 ・団体構成員 23名 ・一般参加者 250名 ・ボランティア 名 ・ 名 ・ 名 計 273名	
④ 活動実績（実行委員会や準備作業の活動実施等の主な実施日、内容をご記入ください。）  12月5日ごろ 観光マップの配布（赤穂観光案内所、ハーモニーホール等）  12月10日 赤穂東中学校、赤穂西中学校 赤穂市の中学校において、赤穂義士についての説明をスライドや劇を手段として用いながら説明。早かご体験、朗読劇、○×クイズなども実施した。  12月14日 義士祭物産市スペース 法被を着て早かご体験 着付け体験 それぞれ1つのブース内で実施した。	

## 2 活動実施の成果と今後の課題

### ① 活動実施の成果

取り組みを12月14日の神戸新聞（朝刊）に取り上げていただき、多くの人に関心を持っていただくことができた。義士祭当日の成果としては、まず着付け体験は、最初は人がなかなか訪れなかったが、徐々に人が増え、県外（京都）の方にも楽しんでいただき、コミュニケーションが生まれた。早かご体験は視察に来られていた齋藤知事も乗せることができ、赤穂市の若者の元気の良さや明るさをアピールすることができた。もちろん齋藤知事に対してだけでなく、全体のにぎやかな様子が周囲に対しても広がり、物産市全体を明るく盛り上げることができた。

中学校訪問では赤穂市唯一の高校として、各々の母校である東中、西中の後輩へ、赤穂義士という絆を確かめ合う良い機会となった。義士教育は赤穂市全体を通じて小学校から力強く実施されているが、高校生という中学生にとって身近な存在が真摯に伝えようとする姿勢は新しい感動を生んでいた。それは中学生に書いていただいた感想文を読んでも明らかである。もともと、物語を深く知っている生徒も多かったはずだが、中には「高校生が演じることで物語が入ってきやすかった」と、書いている子もおり、前述した通り、高校生が話すことによる印象深さがあったようである。高校生もこの機会によって、歴史博物館に赴き、自分たちの知識が正しいかどうか確かめるなど、理解を深めることにもつながった。そのなかで中学生への説明を考えたり、朗読劇を実施したりすることができたため、高校生にとっても郷土赤穂の誇りである赤穂義士への思いを強くするきっかけとなった。何より今回、赤穂東・西中学校のご協力のもと、赤穂義士の物語を高校生と中学生が共有することができたのは、絆を確かめ合う、という意味でかつてない義士教育の機会となった。

### ② 今後の課題

物産市において多くのことを実施したので、1つのブースでは場所が足りなかった。今後出店する際には、スペースの配分も吟味して取り組みたい。

また、今回「義士ライダー」復活を企画していたが、断念した。12月の義士祭やそれ以前の広報活動に備えて8月から制作に取り掛かっていた。11月中旬ごろには広報活動が始められる状態まで準備完了していた。しかしこの活動を知った外部の方から「これは仮面ライダーの著作権にひっかかるのではないか」とのご忠告をいただき、確認を行った。まちおこしの趣旨や、活動には高校生が携わっていることを説明したが、著作権を持っている東映側からは「いかなる理由があろうと著作権に抵触する」という回答だった。義士祭の日も迫っており、法的問題をクリアするための時間もなく、今回は登場を見送らざるをえなかった。まちおこしにはSNSを用いた広報活動が欠かせない。だからこそ肖像権や著作権等、今後リーガルチェックを万全に行っていきたい。

### 3 実施活動の写真

	<p>写真のコメント</p> <hr/> <p>早かご体験</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
	<p>写真のコメント</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
	<p>写真のコメント</p> <hr/> <p>中学校訪問の様子</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

### 4 参考資料を自由に添付してください。

※ 用紙が不足する場合は、欄の大きさを変えるか用紙を追加してください。  
 (ただし、別紙4全体で、用紙A4サイズで5枚以内としてください。)